



みなさんのご意見をお寄せください。市への要望や日ごろ感じたことなど何でも結構です。また、地域の問題も募集します。お知らせ下さい。こちらから取材にうかがいます。

企画課広報係 ☎ (3) 1111

識ることのたいせつさ

島久仁夫

テレビでNHK甲府から「郷土の歌」が放映されている。広く県民から募集した入選作である。

山梨の史的移り変りを歌詞として、「昔甲州今山梨」と結んで歌い上げている。

放送局も「ふるさとづくり」の一環として企画し、協力しているであろう。

「ふるさとづくり」は各地域で、各様にこの運動を懸命に展開している。そのことのねらいは地域住民の心に訴えているのではなからうか。地に根ざした人々の和をあげ、郷土に生きる喜びを確認し合っ

て生活にうるおいを持ってほしいと希望するのが運動の本旨ではないかと考える。

にその必要があるのであろうか。戦後、急速な高度成長した各地域の実情は、余りにも大きく変革している。

経済発展が民衆にプラスかマイナスかは別として、追われるままに人心も自然破壊と同じく荒廃しつつある。

それが将来への愛いであり、心を取り戻そうの推進運動の原動力ともいえる。

都留市も昨年は市内に現存する重宝や歴史的意義を持つ民具の写真を掲載したカレンダーを各戸に配布した。

今年は同じカレンダーに各名所や良き景観を美しく掲げ、各家庭に配布した。

このような良き街を誇りにして

ほしいと、愛郷心に訴えているのである。立派な物だけに、私は粗末には扱ってはいないし、旧知の訪問にも自慢して見せてもいる。

しかし、最近になって、このカレンダー発行に賛否両論のあることを聞く。企画に対する目的も問われているという。ご承知のように、カレンダーなるが故にである。企業や商社が宣伝広告のため競って豪華なものを配って、家庭では始末に困る程の量になっている。

安っぽく扱われても無理ないし、これ等と同一視されて始末されてしまいうには余りにもおしい気がしてならない。一考を発行者にうながしたい。受けるものもまた、真の意味合いを知ろうと努めねばならない。

都留市も日毎に変ぼうしつつある。新しい都市建設のためにはそれも止むを得ない。

昨年のカレンダーを改めて開いてみて感ずることは、江戸期の繁栄が物語るような良き時代には、酔人異客の訪れも、しばしばその都度それをもてなしす温き豊かさに生きた人々の心を誇りとして伝承する現代人にも活き続けている筈だ。市内に保護されている史蹟や歌碑等からもそれは伺える。

ことさらにいま、古きを識り、新しき「ふるさとづくり」を推し進める真の意義はそこにあると私は思う。

誰だ!!

空きカンを川へ棄てたのは

六十一年「かいじ国体」は、もうすぐそこまできています。

澄んだ空気と清らかな川の流れ

係から

「ふるさとカレンダー」編集事業は、県の「ふるさとづくり県民運動」に呼応して、昭和五十五年

から開始したものです。

この事業は、人々の心の中に忘れかけていた郷土への愛着心を呼び起こすため、自分たちの郷土の文化、自然、習慣などを再認識していただくという主身をもって

います。

また、市民参加による「手づくりのカレンダー」という側面ももっているため、市民からの写真提供も行なっておりますが、残念ながら出品作品は皆無に等しい状況です。

カレンダーの評判については、ご指摘のとおり、賛否両論であることも、アンケート調査やインタビューで承知してはいますが、これは価値感の問題でもありませんからこの事業のねらいを充分考慮に入れないで、なお一層企画性の充実を図ってまいります。

「こういう美しい環境で選手団を迎え入れようと、美化運動は推進されている筈です。」

ところが、川をながめてみても道路の脇をみても、空きカンをはじめとする「ゴミ」は減るどころか逆に増えているような気がしてなりません。

外国人が日本人の特性を列挙するときに必ずあげられるのが、公共物を大切にす道徳心の欠陥です。そして、この実態から、「日本は経済的には一等国であっても文化的には三等国である」と評価されてしまう訳です。

かけがえのない自然を市民の財産として保護し、これを後世に引き継いでゆくことは、現代に生きる私達の責務です。

このような認識のもとに、住みよい環境づくりのため、一人ひとりが注意し、監視するよう心がけましょう。

そして、川へゴミを棄てる現場をみついたら、勇気をもってしかってやるやさしさを身につけましょう。

「川は、ゴミの

ベルトコンベアー

ではありません」